

# 事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

558

先進的<sup>地域</sup>農業育成事業

[長期総合計画]

分野別目標	1	安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
政策	3	農林水産業の活性化
施策	1	農林業の振興
取組方針	3	豊かな産地の育成

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	農林水産業費		
	項	農林緑花費		
	目	四季の郷公園事業費		
	大事業	四季の郷公園事業		
	中事業	先進的 <sup>地域</sup> 農業育成事業		

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	農林水産課	中兀 成浩 435-1049
事業実施の根拠法令			関連課			

## 1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	先進的な農作物の実験研究を行い、加工品の開発、地域の特産品づくりを図る。		バイオテクノロジーをはじめとする先端技術の試験研究を行い、ブランド商品の育成・開発をすすめ、21世紀に向け、生産性の高い和歌山市農業の再構築を目指す。			
事業内容		令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
		バイオテクノロジー等試験研究及びブランド商品開発等の調査	葉草栽培取組農家への技術の普及	四季の郷管理運営事業（四季の郷公園）に統合		

## 2 事業コスト

事業費等（千円）	令和02年度		令和03年度		令和04年度		令和05年度		令和06年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伸び率（%）	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
人件費	正規職員	2,389	2,230	1,940	2,172	0	0	0	0	0
	正規職員以外	434	434	459	459	0	0	0	0	0
	小計	2,823	2,664	2,399	2,631	0	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般財源（税等）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所要人数 （人）	正規職員	0.30	0.28	0.25	0.28	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	正規職員以外	0.20	0.20	0.20	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	なし									

## 3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
活動指標	ブルーベリー（薬用作物）栽培取組農家数	戸	目標値	2	2			
			実績値	0	0			
			達成度(%)	0%	0%	%	%	%
成果指標	ブルーベリー（薬用作物）栽培取組農家数	戸	目標値	2	2			
			実績値	0	0			
			達成度(%)	0%	0%	%	%	%

#### 4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している		横ばい	○ 減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい		一部見直しが必要	○ 見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき		他の主体との協働も可能	○ 市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む		中長期的に取り組む	○ 緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる		あまりできない	○ できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	○ 達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	○ 貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない		制約はあるが可能性はある	○ できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

#### 5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持				
	縮小		○		
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	これまで四季の郷公園は農業公園として、農家へ導入するための先進的な農業を実践してきたが、近年の利用者ニーズに応じた運用の見直しが必要である。
見直し・改善内容	体験型農業へのニーズ変化にともない、体験農園や収穫体験など幅広い世代の利用者が満足できる取組が必要である。